

望ましい母となるために

婦人会活動を通じて婦人の地位の向上をはかりまた、明るい社会をきざぎあげるため、当面の婦人問題について学習をつむための「大館市婦人問題研究集会」が、2月18日、中央公民館でおこなわれました。

今年の研究集会には130名の婦人会員が参加し市教育委員の佐々木愛子氏を講師に招いて、午前中は「望ましい母となるために」の講演を聞き、また、午後からは各分科会にわかれて、子どもの

進学や結婚、老後の問題について意見を交換し合いました。

次に、講演の内容と分科会で討議されたことを集約して掲載しましたから、自分の考えていることや行動について、あらためなければならぬことや、もっと別の考え方がないか等についてご家族や近所の寄合いなどでもよく話し合い、よりよい方向を見出してさっそく実行にうつすよう心がけましょう。

婦人問題研究集会

望ましい母となるために

市教育委員 佐々木愛子

母のつとめほど世にむずかしいものはありません。明けても暮れても子どものために惜しみなく自分を捧げて満足している。母たることは地獄のごとく苦しいと芝居のせりふにも出てくるほど、母たる業はまったく至難なことです。

私たちは、母親になることがこんなにむずかしいことと知らずに、母となってしまうようです。しかし、生みの苦しみ育ての苦しみの中にも、心をおどられ、喜びの泉をおかすことのできたのは子どもに対する限りない愛情と希望があったからです。母がまだ若いときは、人生の道しるべもなく、手さぐりで生きてきたようなもので、つまづきながらも、お互に子どもの前に良い母でありたいと願いながら過ぎてまいりました。

今日は、皆さんに、同じ母としてその苦勞を経験してきた者の一人として自分を振り返り、望ましいおおかさんとはいかなるものか、自分の未完成をだれかに成功してもらいたく、また、これから母になる人のために、私の反省としてお話しいたします。

良母になるためには良い結婚が前提となります。これは、家づくりの第一の土台となるため、やがて良い父、良い母になり、また、子どもに与える影響が大きいからです。人間は、その時期時期に特別の成長があるように、母としても成長の段階がなくてはなりません。私たちは、手さぐりの状態で母になり、いろいろの失敗も経験してきたが、それらを生かして次第に育てのコツを身はつけてきました。最近の若い母親の多くは育児にノイローゼ気味で、保護過剰や不必要な甘やかして自信を失っているように見受けられます。身心ともに優れた子どもを育てることは理想ですが、十人十

色、同じ血を分けた兄弟でもおのおの性格がちがうため、子どもの個性をよく理解して育てなければなりません。どの子どもも同じ育て方にゆかないので、ここにサジ加減のむずかしさがあるのです。

幼年期は、もっともたいせつな基礎となる時期で、その以前生後1年をたいせつに育てることがもっとも重大なことであり、それがその子の生涯の底辺になるといわれております。三つ子の魂百までとは名言です。近頃「3才児教育」としきりにいわれているのも、この時期がしつけの最適であり、これを逃しては一生が台なしになるからであります。この時期にしつけが徹底されなかったり無関心であれば、あとあとまで問題が残る、子どもの生涯の不幸となります。しつけは、毎日の平凡な生活の中できり返されているうちに打ち立てられる柱のようなものです。わが子の幸福のためであれば、何でも与えて惜しまない母が、なぜ、もっともたいせつな心のしつけをおろそかにするのでしょうか。たとえば、良い言葉は良い品性を作る、といわれますが、荒々しい言葉のやりとりは粗雑な人間を作ることになります。私たちは、日常生活の中から荒々しい言葉や粗末な言葉、または人を傷つける言葉を無くすように気をつけなければなりません。温かい心の子どもの育てたいならば、子どもが失敗した時、または困っている時に思いやりのある処置をとってから失敗の原因をたずねるように導くべきで、ただ叱りつけたりおどしつけたりではいけません。

少年期の育ち盛りには、知識欲を燃やしてやるよう物ごとに対して疑問や驚きや興味をもたせることです。この時期は、反抗準備期ともいうべき時で取扱いに困難が増えてきます。

しかし、母は自信をもって子どもに信頼されるよう常に彼等に対し応答を用意

しておく必要があります。母はまた、支配者から、助言者に進んでゆかなければなりません。

青年期は、一層たいせつな大きな問題が出てきます。この時期は人間形成のもっとも大事な時であるのに、彼等は勉強に追いつけられ、とかくおろそかにされ、果てはゆがんだ方向へ知らず知らず向いてしまうことが多くあります。この時期こそ責任感、正義感、積極的の態度などを育てておきたいものです。

今は民主主義の時代だからと、彼等を放任しておくのはとんでもないまちがいで、彼等は、まだ判断力も意志も十分固まらない時期ですから、適切な助言をもっとも必要とします。この頃はまた、学校や友人との交りで外にいる時間が多く、家族とのつながりが薄れたような感じになりますが、家庭における子どもの位置づけをたいせつにし、家族の一員としての役割を自覚させる必要があります。少年の非行問題がやかましく取りあげられているこんにち、その原因は、おもに心の不安定から生じることを知り、情緒を豊かに安定させることです。

青年期ともなれば、彼等の人格を尊重し、お互いに理解を深めるために話し合いの場をつくらなければ、一番きついこの時期をおだやかに通過するのがむずかしくなります。恋愛や結婚の問題に直面した時、たとえそれがまちがった方向へ進んだときでも、まず先に理解し、あとで非は非とさとして共に判断をたすけ明るく展開してくれる母を彼等は信頼するものです。それを母が先になげくようでは、子どもを迷わせ失望させてしまいます。夫婦の愛情にも努力が必要であるように、親子の関係にも努力が必要で、おまえを育てたのだ！という優位に立ってきめつけず、良き協力者になってあげべきです。子どもたちがやがて成長し

(つぎのページへ続く)